

- 2 コラム RAMPWAY
泉 麻人

特集 交通ネットワーク

- 5 首都高がめざすもの
首都高速道路株式会社 代表取締役社長
橋本圭一郎

- 6 三つの目標と進化の条件
東京大学 大学院工学系研究科 教授
家田 仁

- 8 首都圏におけるこれからの道路の役割
株式会社インターネットイニシアティブ 代表取締役社長
鈴木幸一

- 12 コラム 道 最相葉月

- 14 CHALLENGE
街づくりと道路整備の一体化

- 15 データ物語
中央環状新宿線
「大橋JCTまで開通」の効果

- 16 首都高HEADLINE

- 18 business essay
オレンジの太陽と水色の空の下、
希望という道に車を走らせる
東京大学 社会科学研究所 教授
玄田有史

- 20 つくる人まもる人
首都高速道路株式会社
幸道貞美

- 22 高速百景 中野正貴

cover photo by Minoru Saito
illustration by Keika Nakajima
contents produced by
Metropolitan Expressway Company Limited

いずみ あさと / 1956年、東京都新宿区生まれ。慶應義塾大学商学部卒業。79年、東京ニュース通信社に入社。「週刊TVガイド」などの編集者を経て、84年、フリーのコラムニスト。近著に『東京ふつうの喫茶店』（平凡社）がある。

にあった。ちなみに、神社の石段の傍らの崖地には、昔の富士講気分が満喫できる草深い山径も設けられている。うーん、しかしいまはさしづめ、246の向こうに見えるジャンクションの建物が富士山……といったところかもしれない。

大橋は目黒区だが、西隣の池尻は世田谷区の領域に入る。246の沿道には、トルコ料理に四川料理、女性が列をつく

るロールケーキの店……魅力的な食のスポットが目につく。

目黒川は中目黒の方にかけて桜並木の名所だが、北沢に向かう上流の方も緑道が続く親水公園風に整備されている。代沢、北沢、池尻、大橋、東山……地名の移ろいを眺めながらあたりを散策すると、山の狭間に沢川が流れ、池があった……往時の景色が想像されてくる。

ところで、この大橋ジャンクションの一面には、かつて玉電の車庫が置かれていた。渋谷から二子玉川に向かって、246の路面を走っていた玉電、僕はサヨナラ運転の日（69年5月10日）にカメラを持って撮影にきた思い出がある。中

国立競技場のフィールドとほぼ同じ広さだという。建築の雰囲気は、ローマのコロッセオを思わせるものもある。246に面した一面は、現在複合施設の建設中で、やがてジャンクション棟の屋上から続く「空中庭園」が作られるらしい。

池尻大橋の駅で降りて、渋谷の方へ向かうと、まもなく246の右手に円筒型の建物が見えてくる。これがジャンクションのドーナツ型の外壁部にあたるところだ。手前の目黒川ぞいを廻りこむように進んでいくと、フェンスにその規模の解説板が掲げられていた。

先日、首都高の大橋ジャンクションを初めて車で通り掛かった。噂には聞いていたけれど、ドームの中をぐるぐると渦巻状に走り抜ける、なかなか刺激的なポイントだった。ふと「サンダーボード」のテーマソングなんかがいまい浮かんできたけれど、このジャンクション、外から見たら、いったいどんな構造になっているのだろうか？ 後日、改めて周辺を散策しにいくことにした。

首都高名所案内① 大橋

玉電がいた ジャンクション

コラムニスト
泉 麻人

学生になったばかりの春、三軒茶屋あたりまで乗って、東横デパートで催されていた「部品セール」に立ち寄った。そのとき、大橋の車庫までは探訪しなかったけれど、その後しばらく東急バスの車庫に使われていた。電車↓バス↓高速ジャンクションと、つまりここは古くから交通にゆかりの深いポイントなのだ。

そんなジャンクションの対面、246の向こう側の小高い所に、武蔵野の面影を残す神社が建っている。上目黒氷川神社——30段余りの急勾配の石段を上っていくと、社の傍らに興味深い石祠がある。明治時代、目黒の元富士の頂きに祀られたものをここに移設してきたらしい。元富士とは、富士山のレプリカを築いた、いわゆる富士講信仰地の一つで、そこは僕の職場から程近い代官山の目切坂上